

宮崎県教育研究連合会

管理職等任用試験練習問題(2018年度版)

(解答編)

- 1 練習問題です。研修会までに、各自で、内容を研究しておいて下さい。研修会では、模範解答を示し、内容を検討します。ただし、問題数が多いので、全ての問題について、事前に検討する時間はないかと思います。問題に目を通すだけでも結構です。
- 2 内容を欲張りすぎたので、相当に、設問が多くなりました。また、解答欄が、狭いかも知れません。その場合は、別紙等をお願いします。
- 3 全て（校長・教頭 共用）として作問してあります。しかし、設問によっては、「教頭として」等の指定があるものもあります。その場合は、各自の受験される職種に読み替えての解答をお願いします。
- 4 今回の内容は以下の通りです。最近の国や県の動向を踏まえた内容項目を中心に作問しました。
 - 1 学力の向上
 - 2 次期学習指導要領の実施
 - 3 「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - 4 チームとしての学校づくりの推進
 - 5 社会に開かれた教育課程
 - 6 カリキュラム・マネジメントの確立(1)・(2)
 - 7 中堅教諭等資質向上研修 ※旧「10年経過研修」
 - 8 教職員のキャリアデザイン
 - 9 教職員の多忙化解消
 - 10 コンプライアンスの推進
 - 11 児童生徒の自殺予防

1 学力の向上

宮崎県の重要な教育的課題の一つに「学力向上」があげられます。学力向上に関しては、個々の教師の授業改善と学校の組織的対応が不可欠です。この2点について、現任校の現状と課題を踏まえ、教頭としてどう改善を図っていくか、答えなさい。

- (1) 個々の教師の授業改善
- (2) 学校の組織的な対応

2 次期学習指導要領の実施

- (1) 平成29年3月に告示された小・中学校学習指導要領について、今次の改訂のねらいとその背景について、経験の浅い教職員や保護者・地域にも理解できるように端的に説明しなさい。
- (2) 中央教育審議会答申(H28.12/21)では、学校教育において重視すべき3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」)を議論の出発点としながら、育成すべき資質・能力を3つの柱で整理しています。その3つの柱を挙げ、それぞれについて簡潔に説明しなさい。
- (3) グローバル化する社会の中で、子供たちにどのような資質・能力を育成していくことが求められるか。中央教育審議会答申(H28.12/21)を踏まえて3つ挙げなさい。また、そのような資質・能力を育成するため、校長としてどのような取組を行うか、具体的に述べなさい。
- (4) 学習指導要領の全面実施に向けて、教職員一人一人の意識改革をどう図っていくか述べなさい。

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現

次期学習指導要領改訂を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習指導方法の改善が求められていることに関して、次の設問に答えなさい。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」が求められる背景と意義を簡潔に述べよ。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、どのような視点で授業改善を進めるか、具体的に述べなさい。
- (3) 本年度初めて教務主任を担当する教員から、「『深い学び』とはどのような学びなのか、中央教育審議会答申を読んだが具体的にイメージできない」との相談を受けました。教頭としてどのように助言するか、具体的に述べなさい。

4 チームとしての学校づくりの推進

平成29年4月に、宮崎県教育委員会は、「教職員の資質向上実行プラン」を改訂しました。これは、今後の教職員の資質向上に向けた基本的な考え方や具体的な取組内容を示したものです。この中では、学校の組織力向上のための取組の充実に係る施策として、「チーム体制の充実」をあげています。

チーム体制の充実の意義について、あなたはどのように考えますか。

また、チーム体制の充実を推進するためには、校内体制の強化が必要ですが、上記プランにあげられた5項目のうちの2項目について、あなたの学校の現状を踏まえ、どのように強化を図るか、具体的に述べなさい。

5 「社会に開かれた教育課程」

平成29年3月に告示された小・中学校学習指導要領について、次の設問に答えなさい。

- (1) 「社会に開かれた教育課程」とは何か。それが求められる背景も踏まえて簡潔に述べなさい。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、校長として、具体的にどのように取り組みますか。
あなたの考えを書きなさい。
- (3) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教頭としてどのような取組を進めるか、箇条書きで述べなさい。

6 カリキュラム・マネジメントの確立(1)

次の設問に答えなさい。

- (1) 各学校における「カリキュラム・マネジメント」の重要性が指摘されていますが、カリキュラム・マネジメントの意義について自分の考えを述べた上で、自校でカリキュラム・マネジメントを確立するために教頭としてどのように取り組めばよいのか、簡潔に述べなさい。
- (2) 教育内容の質の向上に向けて大切なことを「カリキュラム・マネジメント」の側面から説明しなさい。ただし、「教育課程」「PDCAサイクル」「主体的・対話的で深い学び」の3つの言葉をすべて使うこと。
- (3) ある教員から、「カリキュラム・マネジメントが重要といっても、何をどうすればよいのかわからない。カリキュラム・マネジメントは、管理職や教務主任の仕事ではないのか。」という意見が出されました。どのように対応しますか。

6 カリキュラム・マネジメントの確立(2)

新学習指導要領では、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るため、子どもがどのように学び、どのような資質・能力を身につけられるようにするかを明確にした教育課程の実現が求められています。あなたは校長として、資質・能力と学力との関係をどのようにとらえ、取り組んでいくのか、具体的に述べなさい。

7 中堅教諭等資質向上研修

平成29年4月に、宮崎県教育委員会は、「教職員の資質向上実行プラン」を改訂し、中堅教諭等資質向上研修を、ミドルリーダー育成の事業の一つに位置づけました。これについて、以下の問いに答えなさい。

- (1) 中堅教諭等資質向上研修が設けられたのは、教育公務員特例法の一部改正（平成29年4月1日施行）によるものですが、今次の同法改正の概要をその背景とともに簡潔に述べなさい。
- (2) 中堅教諭等資質向上研修のねらいを書きなさい。
- (3) 中堅教諭等資質向上研修を実施する際には、当該研修を受ける者の能力・適性等について評価し、その結果に基づき当該者ごとに計画書を作成することされているが、研修受講者が県費負担教職員の場合、計画書は誰が作成するか。
- (4) 中堅教諭等資質向上研修の該当教員が所属する学年の学年主任から、「この研修は、学校運営上負担が大きい。校内での研修は当該教員の自主的な取り組みに任せてはどうか」との申し出があった。管理職としてどう対応するか述べなさい。

8 教職員のキャリアデザイン

平成29年4月に、宮崎県教育委員会は、「教職員キャリアデザイン手引書」を作成しました。これについて、以下の問いに答えなさい。

- (1) 教職員としての「キャリアデザイン」とはどのようなことをさしていますか。簡潔に答えなさい。
- (2) キャリアデザインの必要性について、簡潔に説明しなさい。
- (3) キャリアデザインを作成する流れについて、同手引書では、どのような手順で説明していますか。
- (4) あなたの学校の校内研修で、校長がキャリアデザインについて、説明したところ、研修の後に、ある中堅教員が「キャリアデザインを描いても、なかなか思うようにならないのだから、意味がないのではないか」と質問してきました。教頭として、あなたはどうか答えますか。
- (5) 本県では、今後、経験豊かな教職員の大量退職が予想されるため、将来の管理職を計画的に育成していく必要があります。あなたは、校長として、このキャリアデザインの重要性を踏まえた上で、次の管理職を担う中堅職員をどう育てていきたいと思いませんか。簡潔に述べなさい。

9 教職員の多忙化解消

教職員の多忙化が問題されている中、平成29年4月28日に、文部科学省は「教員勤務実態調査」の集計（速報値）を発表しました。これについて、次の問いに答えなさい。

- (1) この調査によると、教諭の平日1日あたりの学内勤務時間は11時間15分（小学校）、11時間32分（中学校）となっており、10年前の調査より30分以上も増加している。土日については、2倍近く、あるいはそれ以上の増加となっている。また、業務内容別に見ると、小学校では「授業」「学年・学級経営」、中学校では小学校の項目の他に「授業準備」「成績処理」の時間が、10年前に比べて増加している。この調査結果におけるあなたの学校の現状を踏まえ、今後、総実勤務時間の短縮にどのように取り組むか述べなさい。
- (2) 学校現場の多忙化の原因・背景としてどのようなことが考えられるか。数点を挙げなさい。
- (3) 職員の中から毎日の帰宅時間が遅くなったり、部活動の指導以外でも、土曜・日曜日に出勤しなければならない日が増加しているとの訴えがあります。校長として、職員の勤務時間の適正な管理はどのようにしたらよいでしょうか。

10 コンプライアンスの推進

本県では、コンプライアンスの推進にあたって、平成24年7月に「宮崎県公立学校コンプライアンス推進協議会」を発足させ、組織的な取組を行ってきました。しかし、依然として教職員の不祥事の根絶には至っておらず、今年度も、全県的かつ組織的な取組を推進しています。そこで、次の点について述べなさい。

- (1) 平成29年度の本県の重点取組事項3点を述べなさい。
- (2) 上記の事項の中から1つを選び、教頭として、どのように取り組んでいくか具体的に述べなさい。その際、必ず「コンプライアンス・チェックシートの活用方法」についても述べなさい。

11 児童生徒の自殺予防

過去3年間、日本の自殺者全体の総数は減少傾向にあるものの、自殺した児童生徒数は減少していない状況にあり、児童生徒の命を守る取組の強化は喫緊の課題です。以下の設問に答えなさい。

- (1) 平成28年4月1日の自殺対策基本法の一部改正では、学校の役割が新たに規定されました。これを踏まえ、あなたは児童生徒の自殺の根絶のために、教頭としてどのようなことに取り組もうと考えるか、具体的に述べなさい。
- (2) 学校に「いじめられているので死にます」という差出人不明の自殺予告の投書があった場合、教頭としてどのように対応するか、列挙しなさい。
- (3) 近隣の学校でいじめが原因とみられる児童生徒の自殺があったとのマスコミ報道がありました。これを受けて、校長として自校の教職員、児童生徒への対応を具体的に述べなさい。